



楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第20号
令和7年1月17日(金)
文責:校長 佐藤 政臣

児童の自己肯定感の変容（6月と12月の比較）

自己肯定感とは、「自分には生きる能力があり、幸せになるだけの価値がある」と確信した感情です。認知能力・非認知能力を高めるための根幹であり、土台となるものが自己肯定感です。

自己肯定感とは、以下に示した六つの「感」で支えられています。

この自己肯定感アンケートを、6月(3年生以上)にとりました。その結果は、「楓の森アップデート2 第7号(R6.7.12)」で紹介しました。その後、半年が経過して、子供たちがどのように変更したのかを見るために、12月に第2回目のアンケートを実施しました。以下は、そのアンケート結果の変容です。

※ 単位は(%)で、5%以上 上がった項目(↑)、5%以上 下がった項目(↓)

自己肯定感	項 目	3年		4年		5年		6年	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
自尊感情	①自分のことが好き(自分の好きなのがいえる)	80	86 ↑	77	83 ↑	74	78	71	71
	②自分に「いいね!」といえる	70	88 ↑	71	80 ↑	70	81 ↑	69	66
自己受容感	③授業中に間違いを気にせず手をあげることができる。	46	35 ↓	42	58 ↑	31	39 ↑	37	31 ↓
	④多数決で少数派でも意見を変えない。	81	83	79	77	75	70 ↓	64	71 ↑
自己効力感	⑤失敗してもあきらめずに何回もチャレンジできる	92	89	87	84	86	86	79	77
	⑥何ごとにもやる気をもってとり組める	83	83	85	83	71	79 ↑	74	66 ↓
自己信頼感	⑦将来の夢がある	92	93	90	90	86	77 ↓	88	86
	⑧自分の意見をまわりに伝えられる	79	85 ↑	78	92 ↑	63	77 ↑	67	76 ↑
自己決定感	⑨自分から宿題をやることができる	85	93 ↑	91	88	77	83 ↑	79	82
	⑩わからないことを素直に聞ける	83	83	75	86 ↑	73	79 ↑	70	75 ↑
自己有用感	⑪困っている友だちがいたら声をかける	94	96	93	92	93	98 ↑	91	89
	⑫ありがとうといわれるとうれしい	97	97	96	95	93	99 ↑	98	97

どの学年も伸びが見られましたが、「③ 授業中に間違いを気にせず手をあげることができる」という項目に課題がみられました。「教室は間違えるところ」、「間違いから学ぶことが真の学び」等、間違えることが学びにつながるということを子供たちに伝えていきたいと思います。

挙手して間違えることを恐れてはいけません。人は、失敗から多くのことを学び、メンタルも強くなっています。そう考えると、「チャレンジしないことこそ失敗である」ということになります。

“trial and error” 試行錯誤し、失敗を重ねながら成長してほしいと思います。

(自己肯定感を支える六つの「感」)

- ①自尊感情・・・自分には価値があると思える感覚(夢・希望)。この自尊感情が安定していると、ものごとを肯定的にとらえることができ、自尊感情が高くなれば、どんな状況でもそこにやりがいを見つけられるようになる。
- ②自己受容感・・・ありのままの自分を認める感覚(考える力)。あるがままの自分を認め、自分らしく動じずに生きるために必要な感覚。強く伸びれば「折れない心」が手に入る。
- ③自己効力感・・・自分にはできると思える感覚(やり抜く力)。自己効力感が高まると、やり抜く力、粘る力がつき、「失敗はチャレンジした証!」と思えるようになります。
- ④自己信頼感・・・自分を信じられる感覚(回復する力)。自分を信じることができれば、どんな困難な状況でも人生を切り拓いていくことができる。「根拠のない自信こそ、自己信頼感の正体!」
- ⑤自己決定感・・・自分で決められるという感覚(達成する力)。主体的に自分で決めていくことで、自分らしい人生を切り拓いていくことができる。自己決定ができると選択肢が広がり、そこから主体的に「これ!」と選択することができるようになる。自立できる子になっていく。
- ⑥自己有用感・・・自分は何かの役に立っているという感覚(未来を切り拓く力)。自己有用感が高まると、自分は多くの人によって支えられているという安心感を得ることができる。人はだれかの役に立ったときに最大の幸福感を感じる。